

平和グループ

平和グループの質問を始めます。

私たちのグループは、平和ボランティアガイドや平和学習について話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 中学生による平和ボランティアガイドについて

広島平和記念資料館を訪れる外国人の数は、令和元年度まで8年連続で増加しています。

さらに、原爆投下75周年に合わせて、アメリカの若者などを対象にNHKが行った調査によると、原爆についてもっと知りたいと思うかという質問に対して、アメリカ人は80.5%が知りたいと答えています。

広島市のユースピースボランティアや学校での平和ボランティアの募集も行われていますが、応募資格が高校生以上などに限られています。次世代を担う広島の中学生在が平和について深く考え、自ら発信できる機会は少ないと思います。

そこで提案です。需要が高まる外国人観光客への平和ボランティアガイドに、県内全域から中学生も積極的に応募し参加できるよう、若いうちから平和ボランティアガイドを育て、活躍できる機会を県が提供してはどうでしょうか。

このような若い世代による平和ボランティアガイド活動は、被爆者の高齢化が進み、健康状態や言語などの理由から、自身の言葉で直接、被爆体験や平和メッセージの発信が困難な被爆者の助けにもなり得ます。

また、平和ボランティアガイド活動を通じて被爆体験を伝承していくためには、戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深める必要があるので、中学生の主体的かつ効果的な平和学習につながると考えます。

答弁（知事）

被爆から76年経ち、被爆者の人数は年々減少し、過去最少のおよそ12万7千人、平均年齢は84歳と高齢化が進んでいます。そういう中、核兵器のない平和な世界を実現していくため、被爆者の思いを引き継ぎ、世界へ発信することができる若者の育成や活躍が重要であると考えています。

このため、県では、今年、語学力や、国際社会で自らの考えを積極的に発信する力を養うため、県内外の高校生20名が参加した「グローバル未来塾inひろしま」や、日本と海外13か国から、59名の高校生が参加し、国際平和についての討議や交流などを行い、平和のメッセージを世界に発信した「ひろしまジュニア国際フォーラム」を開催し、次世代の人材育成に取り組んでいます。

また、核兵器廃絶に向けた取組のPRや国際社会への働きかけに積極的に取り組んでいただく「ひろしま核なき持続可能な未来ユース大使」を今年度新たに創設して、今月、高校生2名、大学生1名の計3名の方を任命したところです。

これらの取組は高校生以上を対象としていますが、中学生のうちから様々な機会を通じて戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めることも重要だと思います。

このため、県としても、皆さんのような中学生を含めた次世代を担う若い人たちの育成をさらに強化して、また、国際会議やイベントなどでのボランティアや若者の人材育成プログラムの聴講、中学生による平和活動のウェブサイトでの紹介など、平和に関する幅広い活躍の場の提供などについても検討していきたいと思います。

皆さんが、広島で、平和について学び、考えたことを、将来、世界中の多くの人々に伝えることで、核兵器のない平和な世界の実現に向けて、共感を呼んで、大きなうねりをおこすことができると考えています。将来の皆さんの活躍を強く願っているところであります。

質問2 広島市以外の平和学習について

広島市の小中学校では、学年に応じて様々な平和学習が行われていると聞いたことがありますが、広島市以外の小中学校では、社会見学などで広島平和記念資料館を訪れる程度で、原爆や平和について学ぶ機会が少ない学校もあると聞きました。

そのため、広島に原爆が落とされた日を忘れていたり答えられない人もいて、原爆について他人事と捉えている人も多いと思います。

そこで1つ目の提案です。県内の様々な地域に住む被爆者の方々に当時の様子や人々の思いについて聴き、それを基に劇を作って発表するのはどうでしょうか。

さらに、その発表の様子を動画に収めて、英語などの字幕をつけてインターネットで発信してはいかがでしょうか。国内外の人たちに平和について考えてもらうきっかけの一つになると思います。

戦争や被爆に関する施設というと、原爆ドームを思い浮かべる人が多いと思います

が、竹原の大久野島や福山の平和資料館など、広島県内には戦争や被爆に関する場所が多くあります。

そこで2つ目の提案です。それぞれの地域の小中学生が、地域にある戦争に関する施設について調べ、実際に訪れ、そこで見聞きしたことをまとめて、パンフレットにします。作成したパンフレットをその施設や県内で配布してはどうでしょうか。

そうすることで、子供たちが自分の住む街も戦争や原爆に関わりがあることを学ぶことができ、戦争に関する記憶の風化を防ぐこともできると思います。

答弁（教育長）

小中学生の皆さんが平和について学ぶことは、私も大切なことであると思います。

御提案のように、学習した内容を劇で表現したり、他の言語に翻訳し字幕をつけて広く発信したりする活動や、戦争に関連する施設などをパンフレットにまとめて配布したりする活動は、平和についての学びを自分事として深めるだけでなく、多くの人に平和について考えていただく機会となる、すばらしい取組だと思います。

広島県に住んでいる皆さんだからこそ、身近にある原爆や戦争に関する施設を実際に見たり、話を聞いたりして、発信していくことが大切であると思います。

ところで、皆さんが考える平和学習とはどのようなものでしょうか。

世界では、今も各地で紛争が起こっています。戦争か平和かという2つに1つの世の中ではなく、そのために様々な交渉のカードをもって世界の人と話し合っていかなければ平和は保てないのかもしれない。

そこで、広島県教育委員会では、県内の中学生や高校生を対象に「ワールドピースゲーム」という、体験プログラムを実施しました。

これは、参加者が仮の国家や国際機関のリーダーになりきり、仲間と助け合いながら、他のチームと意見や価値観の違いを恐れずに対話することで、戦争という手段をとることなく、実際の社会でも起こっている問題を対話により解決していくというものです。

また、今年7月には、県内の高校生による実行委員会が中心となって、世界の高校生と平和について考えるためのウェブサイトHiroshima International Peace for HOPEを開設して、「平和」をテーマとした高校生国際会議を英語で運営しました。

この中で、From広島、to広島、広島から発信するだけでなく、世界の高校生から広島の高校生たちへのメッセージもたくさん届けられました。

異なる文化や考え方を持つ人たちとの「違い」を理解し、共に平和についてディスカッションしながら考えていくということも、これからの平和学習には必要なのではないかと思います。

皆さんも、GIGAスクールで配られたタブレットなどを活用して、ウェブサイト Hiroshima International Peace for HOPEの取り組みなども確認しながら、どのような平和が望ましいのか考えてみてくださいと嬉しいです。